

寄稿

市は財政難、ホールは再考を

おだわらを拓く力 加藤 憲一

現在、小田原市の平成19年度予算案が審議されています。その中には、平成19年度から41年度までの23年間にわたる「債務負担行為」(借金返済)として、城下町ホール施設取得費63億円が計上されています。その用地購入費13億円を合わせ、私たちが市民は今後毎年4億円近いローンをやりくりして払う、ということになるのです。



かとうけんいち：1964年小田原生まれ。小田原高校、京都大学法学部卒。経営戦略コンサルティング会社、民間教育団体、農業、オービックビル事務局長などを経て、現在有限会社あしがら総研代表。妻と子ども二人の4人家族。

このローンを支払うために、福祉や教育など他の行政サービスが切り詰められる可能性があります。当然、それに見合う価値のあるホール建設でなければならぬのですが、建設を急ぐ余り狭い敷地に無理やり押し込んだ、市民意見の反映も不十分な現設計案は、市民同意を得られていません。見直し要求署名は3万3千人近くに達しています。

一方で、市民生活の安心・安全を脅かす問題が厳然とあります。例えば市民の医療を支える市立病院の診療体制の危機。腎内科・心身医療科の外来停止、神経内科の縮小、土曜開院の中止、里帰り分娩の縮小。更に4月からは、呼吸器・消化器・循環器の内科3科と耳鼻咽喉科で初診受け入れが停止に。開設の待たれる救命救急センターの医師確保も難航…。

積んでいます。しかも市の借金総額は一般会計の2.5倍、1500億円以上。市民の生命に関わる課題にすら見通しが立たぬ中、市民が納得できぬ建設事業に借金を重ねる余裕など無いはずです。「夕張」の轍を踏まぬためにも、3月市議会の予算議論に市民の声を届けましょう。そして4月の選挙では、次世代に負の遺産を残さぬよう、確かな選択を。

おだわらを拓く力
 (加藤けんいち後援会)
 代表/飯田 和
 小田原市栄町2-13-1-2F
 TEL0465-21-5260
<http://www.katoken.info>
加藤憲一日記 更新中!